

川鍋正敏教授の略歴および業績

1929年10月7日生

略 歴

- 1942年4月 東京高等師範学校附属中学校入学
- 1947年3月 同校卒業
- 1947年4月 成蹊高等学校（旧制）文科乙類入学
- 1950年3月 同校卒業
- 1950年4月 成蹊大学（新制）政治経済学科第三学年編入学
- 1952年3月 同大学卒業
- 1952年4月 立教大学大学院経済学研究科修士課程入学
- 1954年3月 同大学・同大学院修了，経済学修士（立教大学）
- 1955年4月 立教大学大学院経済学研究科博士課程入学
- 1958年3月 同大学・同大学院単位取得退学

職 歴

- 1956年11月 立教大学経済学部助手
- 1959年4月 立教大学経済学部専任講師
- 1961年4月 立教大学経済学部助教授
- 1965年4月 フンボルト大学（当時の東ベルリン）に留学（1966年3月まで）
- 1969年4月 立教大学経済学部教授
- 1975年4月 立教大学経済学部経済学科長（1977年3月まで）
- 1976年4月 立教大学体育会器械体操部部长（1995年3月まで）
- 1979年4月 立教大学大学院経済学研究科博士課程前期課程主任（1985年3月まで）
- 1981年12月 文部省学術審議会専門委員（1983年11月まで）
- 1985年4月 立教大学経済学部長，学校法人立教学院評議員（1986年3月まで）
- 1995年3月 立教大学定年退職

学会および社会における活動

経済理論学会幹事，経済学史学会会員，経済学会連合評議員，日本ドイツ友好協会幹事

研究業績

著書

(単著)

『経済学』玉川大学通信教育部, 1969年3月

(共著)

1. 『資本論講座3』(杉本俊朗・山本二三丸・金子ハルオ・越村信三郎) 青木書店, 1964年4月
2. 『近代日本経済思想史II』(関口尚志・大河内一男・大野英二・戸塚秀夫・宮崎義一・正村公宏・内田芳明) 有斐閣, 1971年3月
3. 『経済分析入門』(富塚良三・吉沢芳樹・大木啓次・鶴田満彦・井村喜代子) 有斐閣, 1972年6月
4. 『経済思想の事典』有斐閣, 1975年10月
5. 『「資本論」を学ぶIII』(桜井毅・佐美光彦・山田鋭夫・松尾純・木下悦二) 有斐閣, 1977年9月
6. 『資本論体系4』(吉原泰助・和田重司・宮川彰・二瓶剛男) 有斐閣, 1990年4月

編著

『マルクス経済学の基礎知識』(種瀬茂・深町郁弥・村岡俊三) 有斐閣, 1976年11月

翻訳

(単訳)

1. H・シャハト著『イギリス重商主義理論小史』未来社, 1963年7月
2. K・マルクス著『「資本論」第2巻第1篇』新日本出版社, 1984年11月

(共訳)

K・マルクス『資本論草稿集4』大月書店, 1978年12月

(監訳)

1. K・ゴスヴァイラー『大銀行, 工業独占, 国家』中央大学出版部, 1979年8月
2. M・ミュラー『「資本論」への道』大月書店, 1988年2月

(閲訳)

K・マルクス著『「資本論」第2巻第2篇』新日本出版社, 1985年11月

論文

1. 「『固定資本の更新』および『資本主義的生産の制限性』の問題について」
(『立教経済学研究』第12巻第2号, 1958年10月)
2. 「恐慌把握に関する覚え書——いわゆる『内在的矛盾』を中心として——」
(『立教経済学研究』第13巻第4号, 1960年2月)

3. 「恐慌把握に関する覚え書——『資本論』第3巻第3篇第15章をめぐって——」
(『立教経済学研究』第14巻第4号, 1961年2月)
4. 「エンゲルスの『産業循環変形論』について」
(『ドイツ資本主義の史的構造』有斐閣, 1972年3月, 所収)
5. 「『戦後恐慌』の新しい視角」
(『エコノミスト』1973年11月17日号)
6. 「『資本論』と恐慌論の構成」
(『経済』1974年5月号)
7. 「戦後資本主義経済の政策的限界——『スタグフレーション』と『国際協調』——」
(『経済』1988年1月号)
8. 「ソ連は、なぜ、崩壊せざるをえなかったのか」
(『世界文学』第79号, 1994年7月)

その他

久留間鮫造編『マルクス経済学レキシコン』全15巻, 大月書店, (1969年3月から1985年9月)
の編集・翻訳に協力